

少年写真新聞 2008年(平成20年)5月8日発行
 Juniors' Visual Journal 第291号付録少年写真新聞社2008年
 ※著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

ほけん ニュース



株式会社 少年写真新聞社
 〒102-8232 東京都千代田区九段北1-9-12
<http://www.schoolpress.co.jp/>

★定期刊行物は終わる期間を予定していない刊行物ですから、年度が変わりましても、購読中止のお申し出がない場合、引き続きニュースをご送付申し上げます。

検尿・検便は大切!

新潟県 上越市 塚田こども医院

院長 塚田次郎

尿や便を検査すると、健康状態について多くの情報が得られます。かくれた病気を早く見つけることもできます。検尿や検便でどんなことがわかるか、お話しします。

検尿

尿は腎臓^{じん}でつくられ、膀胱^{ぼうこう}などを通して外に出される液体。おもな成分は血液から取り除かれた老廃物です。尿を検査をすることで体内のようすをある程度知ることができます。

もし腎臓に病気があると、普通は出てこないたんぱく質が出たり(たんぱく尿)、赤血球が出たりします(血尿)。

腎臓の病気の多くはゆっくりと進行していきます。最終的に腎臓の機能が極端に低下し「腎不全」という状態になってしまうと、治療しても元に戻すことができなくなります。人工透析や腎移植という特殊な治療が必要になることもあります。

そんな腎臓の病気を、本人の症状のない時期に早く見つけ、治療を受けることができれば、正常な働きに治すこともできるかもしれません。尿検査は早期発見の手掛かりとしてとても有用なのです。

空腹時には尿に糖が出ることはないのですが、朝起きてすぐの尿に糖が混じっていれば糖尿病が心配になります。

子どもに見られる糖尿病は、インスリンという血糖をコントロールするホルモンが分泌されなくなる“やせ型”が多いとされています。しかし最近はおとなの生活習慣病と同じく、食べすぎが原因の“肥満型”も次第に多くなっています。

いずれも食生活を改善したり、時には薬による治療の必要があったりする場合もあり、早く見つけることが大切です。

尿検査は毎年行います。1年たつと新しい病気が見つかるかもしれないからです。一度「正常」と判定されても安心せず、毎年必ず検査を行う必要があります。

検便

子どもの便を検査するのは寄生虫がいないかどうかを見るためです。近年は衛生状態がよくなり、寄生虫はすいぶん少なくなりましたが、やはり検査は必要です。

一番多いのは蟯虫^{きょうちゅう}で、これは肛門^{こうもん}付近に卵を産みつけるため、それを粘着性テープにくっつけて見つけるという方法が使われています。

親と子どもたちへ

検尿や検便は体の状態を知る有力な検査ですが、それだけで本当に健康かどうかは完全にわかるわけではありません。もし「異常」があれば早めに医療機関を受診し、詳しく診てもらうように指導してください。

子どもたちには、自分の体をみんなが心配しているということを教えてください。

よい生活習慣を身につけてほしい年齢です。早寝・早起き、十分な睡眠、適切な食生活などと関係づけながら、検尿や検便の意味合いを子どもたちに話してください。

子どもたちが健康や命の大切さを理解するきっかけになれば、これらの検査の意味はより深まることになるでしょう。